(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4008563号

(P4008563)

(45)発行日　平成19年11月14日(2007.11.14)　(24)登録日　平成19年9月7日(2007.9.7)

(51)Int.Cl.		F I		
B60R 7/06	(2006.01)	B60R	7/06	Z
B60K 37/00	(2006.01)	B60K	37/00	Z
B60N 3/00	(2006.01)	B60N	3/00	

請求項の数 4　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平10-56111
(22)出願日　平成10年2月20日(1998.2.20)
(65)公開番号　特開平11-235952
(43)公開日　平成11年8月31日(1999.8.31)
審査請求日　平成16年12月13日(2004.12.13)

(73)特許権者　000100366
しげる工業株式会社
東京都中央区日本橋浜町１丁目９番１３号
(74)代理人　100085556
弁理士　渡辺　昇
(72)発明者　大塚　高由
群馬県太田市由良３３０　しげる工業株式会社内
(72)発明者　荒木　和男
群馬県太田市由良３３０　しげる工業株式会社内

審査官　三宅　達

最終頁に続く

(54)【発明の名称】車両用内装のポケット構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

内装本体と別体をなすポケットと、このポケットを上記内装本体に着脱自在に取り付けるための相互係合機構とを有し、

上記相互係合機構が、上記内装本体に設けられた複数の孔と、上記ポケットの上記内装本体を向く裏面に上下に離れて設けられた複数の凸部とから構成され、上側の凸部が、上記孔の１つに嵌め込まれる第１基部と、上記第１基部より上側に突出する第１爪部とを有し、下側の凸部が、上記上側の凸部の嵌め込み後に上記孔の他の１つに嵌め込まれる第２基部と、上記内装本体の裏側に突出する第２爪部とを有し、上記第２爪部の上記第２基部側には、上記第２爪部の先端側に向かうにしたがって上に傾く傾斜面が形成されており、

上記上側の凸部を上記１つの孔に挿し入れた後、上記下側の凸部を上記他の１つの孔に挿し入れる際、上記第２爪部の上記傾斜面より先端側の部分が上記他の１つの孔の上端縁に接触して上記下側の凸部が下側へ弾性変形し、挿し入れ完了により上記下側の凸部が上側に弾性復帰し、上記傾斜面が上記他の１つの孔の上端縁に当たるとともに上記第１爪部が上記内装本体の裏面に当たることを特徴とする車両用内装のポケット構造。

【請求項２】

上記内装本体は、上記ポケットのための複数の取付領域を有し、これら複数の取付領域に、それぞれ上記凸部に対応する上記孔が設けられていることを特徴とする請求項１に記載の車両用内装のポケット構造。

【請求項３】

上記ポケットが複数有って、それらの大きさまたは形状が異なるとともに、凸部の数または配置が異なり、上記内装本体は、上記複数のポケットのための複数の取付領域を有し、これら取付領域は、相互に重なり合うとともに、各ポケットの凸部に対応する孔を有していることを特徴とする請求項１に記載の車両用内装のポケット構造。

【請求項４】

上記内装本体の表面にシボからなる枡目模様が形成され、上記複数の孔の各々が、上記枡目模様の枡目の線上に配置されていることを特徴とする請求項１～３の何れかに記載の車両用内装のポケット構造。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

この発明は、車両用内装、例えば、インストルメントパネルやドアトリムなどのポケット構造に関する。

【０００２】

【従来の技術】

一般にインストルメントパネルやドアトリムなどの車両用内装には、種々の物品を収納することができるポケットが設けられている。従来、このポケットは内装本体と一体になっている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

上記従来の構造では、ユーザーが自由に、ポケットを取り外したり、その取り付け位置を変えたり、さらには大きさや形状などが異なる様々なポケットを付け替えたりすることができないという欠点があった。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、請求項１の発明は、内装本体と、この内装本体に設けられたポケットとを備えた車両用内装のポケット構造において、内装本体と別体をなすポケットと、このポケットを上記内装本体に着脱自在に取り付けるための相互係合機構とを有していることを特徴とする。

請求項２の発明は、請求項１に記載の車両用内装のポケット構造において、上記相互係合機構が、上記内装本体に設けられた複数の孔と、上記ポケットに設けられた複数の凸部とから構成され、上記孔に上記凸部が挿入されて係合することを特徴とする。

請求項３の発明は、請求項２に記載の車両用内装のポケット構造において、上記内装本体は、上記ポケットのための複数の取付領域を有し、これら複数の取付領域に、それぞれ上記凸部に対応する上記孔が設けられていることを特徴とする。

請求項４の発明は、請求項２に記載の車両用内装のポケット構造において、上記ポケットが複数有って、それらの大きさまたは形状が異なるとともに、凸部の数または配置が異なり、上記内装本体は、上記複数のポケットのための複数の取付領域を有し、これら取付領域は、相互に重なり合うとともに、各ポケットの凸部に対応する孔を有していることを特徴とする。

請求項５の発明は、請求項２～４のいづれかに記載の車両用内装のポケット構造において、上記内装本体の表面に、上記孔を一部とする模様を付けたことを特徴とする。

【０００５】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について、図１～図７を参照して説明する。図１に示すように、車両のインストルメントパネル１（車両用内装）は、計器２やエアコンの操作盤３および吹き出し口４などが設けられたパネル本体１０（内装本体）と、このパネル本体１０とは別体になった大小２個のポケット２０，３０とを備えている。

【０００６】

ポケット２０，３０は、相互係合機構によってパネル本体１０に着脱自在に取り付けるこ

とができる。この相互係合機構は、パネル本体１０に設けられた孔１２，１３と、ポケット２０，３０に設けられた凸部２２，２３，３２，３３とから構成されている。

【０００７】

詳述すると、図７にも示すように、パネル本体１０の正面壁１１に６個の縦長の孔１２が横方向へ等間隔置きに設けられ、その下側に３個の横長の孔１３が横方向へ等間隔置きに設けられている。下側の３個の孔１３は、それぞれ上側の孔１２のうち、左から１番目のものと２番目のものとの中間、３番目のものと４番目のものとの中間、５番目のものと６番目のものとの中間に、それぞれ配置されている。

【０００８】

図３に示すように、小さいポケット２０は、上面が開口された箱型をなし、その裏面の上縁には左右一対の凸部２２が一体に形成され、その下側中央には凸部２３が一体に形成されている。２つの凸部２２は、パネル本体１０の上側の孔１２の２つに係合し、凸部２３は、下側の孔１３の１つに係合することになる。

【０００９】

図４に示すように、上側の凸部２２は、孔１２に嵌め込まれる基部２２ａと、その上方に突出して正面壁１１の裏面に当てがわれる爪部２２ｂとを有している。

下側の凸部２３は、孔１３に嵌め込まれる基部２３ａと、正面壁１１の裏側に突出する先細の爪部２３ｂとを有している。爪部２３ｂはポケット２０側に傾斜面２３ｃを有しており、この傾斜面２３ｃが孔１３の上端縁に当てがわれることとなる。

【００１０】

ポケット２０をパネル本体１０に取り付ける際の凸部２２，２３の作用を説明する。

図４（ａ）に示すように、まず、ポケット２０を若干傾けながら、左右の凸部２２をそれぞれ孔１２に挿し入れる。次に、ポケット２０の下部を正面壁１１に押し当てていく。これにより、凸部２３が孔１３に挿し込まれる。この際、爪部２３ｂの前側の緩やかな傾斜面が孔１３の上端縁に接触しながら爪部２３ｂが弾性変形し、やがて、後ろ側の傾斜面２３ｃが孔１３の上端縁を越えて、爪部２３ｂが弾性復帰する。その結果、図４（ｂ）に示すように、凸部２３の傾斜面２３ｃが孔１３の上端縁に当てがわれる。それとともに、凸部２２の爪部２２ｂが正面壁１１の裏面に当てがわれる。こうして、ポケット２０がパネル本体１０にしっかりと取り付けられる。

【００１１】

取り付けられたポケット２０を取り外す際は、上記取り付け時の操作と逆の操作を行う。すなわち、まず、ポケット２０の下部を正面壁１１から引き離す。これにより、凸部２３が孔１３から引き抜かれる。次いで、凸部２２を孔１２から引き抜く。これにより、取り外し操作が終了する。

このように、インストルメントパネル１においては、ユーザーが簡単にポケット２０をパネル本体１０に取り付けたり、パネル本体１０から取り外したりすることができる。

【００１２】

次に、大きいポケット３０について説明する。

図５に示すように、ポケット３０は、ポケット２０の横幅を約３倍大きくした形状をしており、その裏面の上縁には４個の凸部３２が等間隔置きに一体に設けられ、その下縁には左右一対の凸部３３が一体に設けられている。凸部３２は、上記凸部２２と同一形状をしており、凸部３３は、上記凸部２３と同一形状をしている。

このポケット３０をパネル本体１０に着脱する操作は、上記ポケット２０の場合と同様であるので、その説明は省略する。

【００１３】

以上のようにポケット２０，３０は、パネル本体１０に対して着脱自在になっているが、それだけではなく、その取り付け位置を変更することもできる。

すなわち、パネル本体１０の正面壁１１におけるポケット２０，３０が取り付けられる部分を取付領域とすると、図７（ａ）に示すように、正面壁１１には、ポケット２０のための取付領域が、左側部（領域▲１▼）と、中央部（領域▲２▼）と、右側部（領域▲３▼

）とに、３つ設けられている。それぞれの取付領域▲１▼，▲２▼，▲３▼には、ポケット２０の上側の２つの凸部２２と下側の１つの凸部２３に対応して、上側に２つの孔１２が設けられ、下側に１つの孔１３が設けられている。これにより、ポケット２０は、領域▲１▼にも、領域▲２▼にも、領域▲３▼にも取り付けることができる。

【００１４】

また、正面壁１１には、ポケット３０に対して、図７（ｂ）に示す左側部と中央部とにわたる取付領域▲４▼と、同図（ｃ）に示す中央部と右側部とにわたる取付領域▲５▼との、２つの取付領域が設けられている。それぞれの取付領域▲４▼，▲５▼には、ポケット３０の上側の４つの凸部３２と下側の２つの凸部３３に対応して、上側に４つの孔１２が設けられ、下側に２つの凸部１３が設けられている。これにより、ポケット３０は、領域▲４▼にも、領域▲５▼にも取り付けることができる。

【００１５】

取付領域▲４▼と取付領域▲５▼とは、正面壁１１の中央部において重複している。すなわち、請求項３の「複数の取付領域」は、相互に重なり合う場合も含む。

ポケット３０を領域▲４▼に取り付けた場合には、領域▲３▼の孔１２，１３が余るので、これにポケット２０を取り付けることもできる。同様に、ポケット３０を領域▲５▼に取り付けた場合には、領域▲１▼にポケット２０を取り付けることもできる。

【００１６】

このように、インストルメントパネル１においては、ユーザーが自由にパネル本体１０にポケット２０を取り付けたり、或いは、ポケット３０を取り付けたりすることができる。しかも、これらポケット２０，３０の取り付け位置を変更することもできる。さらに、２個のポケット２０，３０を同時に取り付けることもできる。これにより、インストルメントパネル１に物品を収納する際の利便性が向上する。また、車内レイアウトの自由度が拡大する。

【００１７】

これらのポケット２０，３０以外にも、パネル本体１０の一部または全部の孔１２，１３に係合することのできる凸部を有するさまざまな大きさや形状のポケットを備え付けておけば、利便性が一層向上し、車内レイアウトの自由度もさらに拡大する。

【００１８】

正面壁１１の表面には、孔１２，１３を枡目状に結ぶ枡目模様１４が付されている。この枡目模様１４は、正面壁１１の表面に絞を施して形成されたものである。これにより、孔１２，１３が、枡目模様１４と渾然一体となってその模様の中に融け込むこととなり、車内に露出していても、あまり目立つことがない。

【００１９】

この発明は、インストルメントパネルに限らず、ドアトリムなどの他の車両用内装のポケット構造にも適用することができる。

【００２０】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項１に係る発明では、ユーザーが自由にポケットを内装本体に取り付けたり取り外したりすることができる。

請求項２に係る発明では、孔と凸部との簡単な構成でポケットを内装本体に着脱させることができる。

請求項３に係る発明では、ポケットの取り付け位置をユーザーが自由に変えることができる。

請求項４に係る発明では、大きさや形状が異なるポケットをユーザーが自由に付け替えることができる。

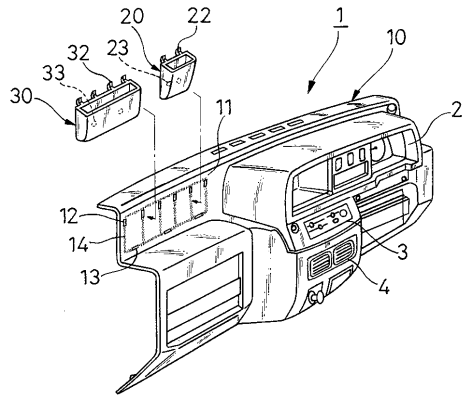
請求項５に係る発明では、車内に露出した孔が目立たないようにして、美観の向上を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

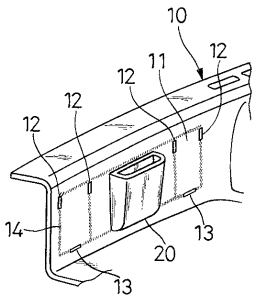
【図１】本発明に係るインストルメントパネルを、パネル本体から大小２個のポケットを

取り外した状態で示す斜視図である。
【図２】パネル本体に小さいポケットを取り付けた状態の一態様を示す拡大斜視図である。
【図３】小さいポケットを裏側から見た斜視図である。
【図４】（ａ）パネル本体に小さいポケットを取り付ける途中の段階における縦断面図である。（ｂ）パネル本体に小さいポケットを取り付け終えた状態における縦断面図である。
【図５】大きいポケットを裏側から見た斜視図である。
【図６】（ａ）パネル本体の正面壁の左側部寄りに大きいポケットを取り付けた状態の拡大斜視図である。（ｂ）パネル本体の正面壁の右側部寄りに大きいポケットを取り付けた状態の拡大斜視図である。
【図７】正面壁の正面図であり、図中、二点鎖線は、（ａ）では小さいポケットの取付領域を示し、（ｂ）および（ｃ）では大きいポケットの取付領域を示す。
【符号の説明】
１　　インストルメントパネル
１０　　パネル本体
１２，１３　孔
１４　　枡目模様
２０，３０　ポケット
２２，２３，３２，３３　凸部
▲１▼，▲２▼，▲３▼，▲４▼，▲５▼　　領域

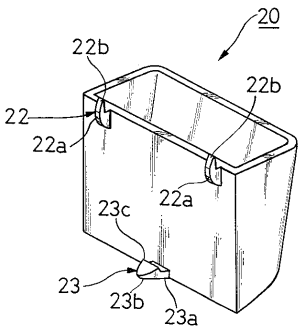
【図１】



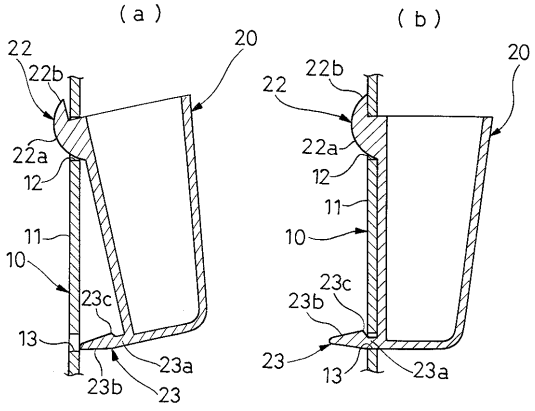
【図２】



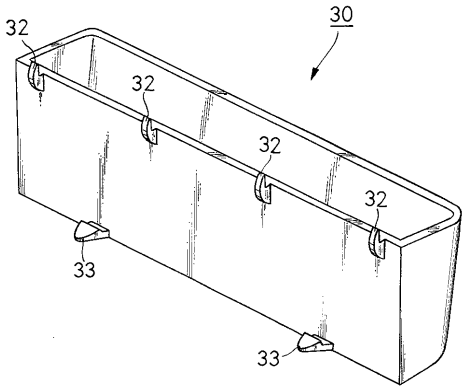
【図３】



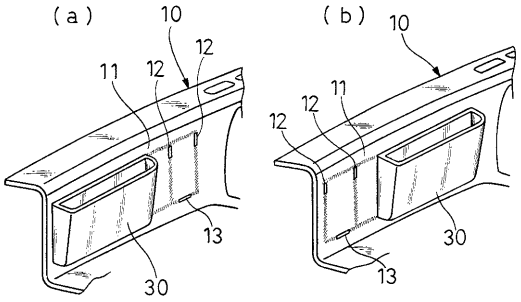
【図４】



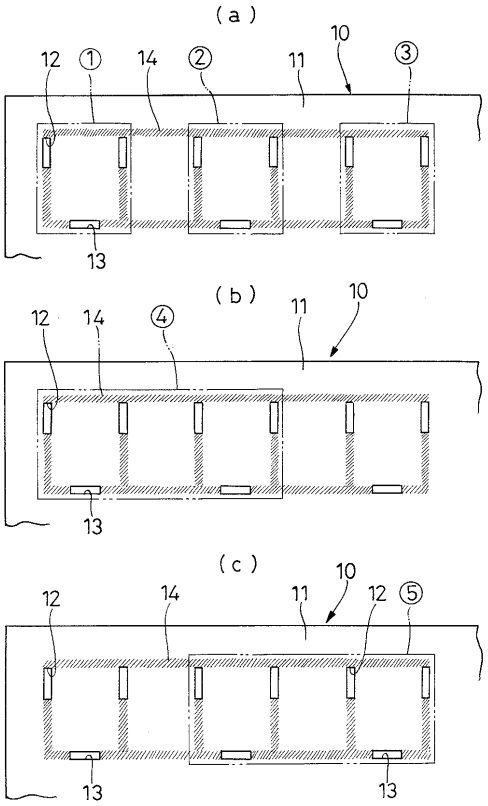
【図５】


30
32
32
32
32
33
33

【図６】


(a)
10
11
12
12
13
30
(b)
10
12
11
12
30
13

【図７】


(a)
10
12
①
14
②
11
③
13
(b)
10
12
14
④
11
13
(c)
10
12
14
11
12
⑤
13
13

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭６１－０６７２２１（ＪＰ，Ｕ）
実開平０５－０７６８９３（ＪＰ，Ｕ）
実開平０６－０３６９９６（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６２－０４４７５０（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B60R 7/06
B60K 37/00
B60N 3/00
F16B 5/00